

GIGAスクール構想のもとでの 小学校特別の教科道徳の指導について

GIGAスクール構想のもとでの道徳科の指導において ICTを活用する際のポイント

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の授業では、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する道徳」への転換、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの改善が求められる。

令和の日本型学校教育

こうした学習がより効果的に行われるようにするための手段としてICTの活用が考えられ、全ての子供たちの可能性を引き出す。

個別最適な学び

協働的な学び

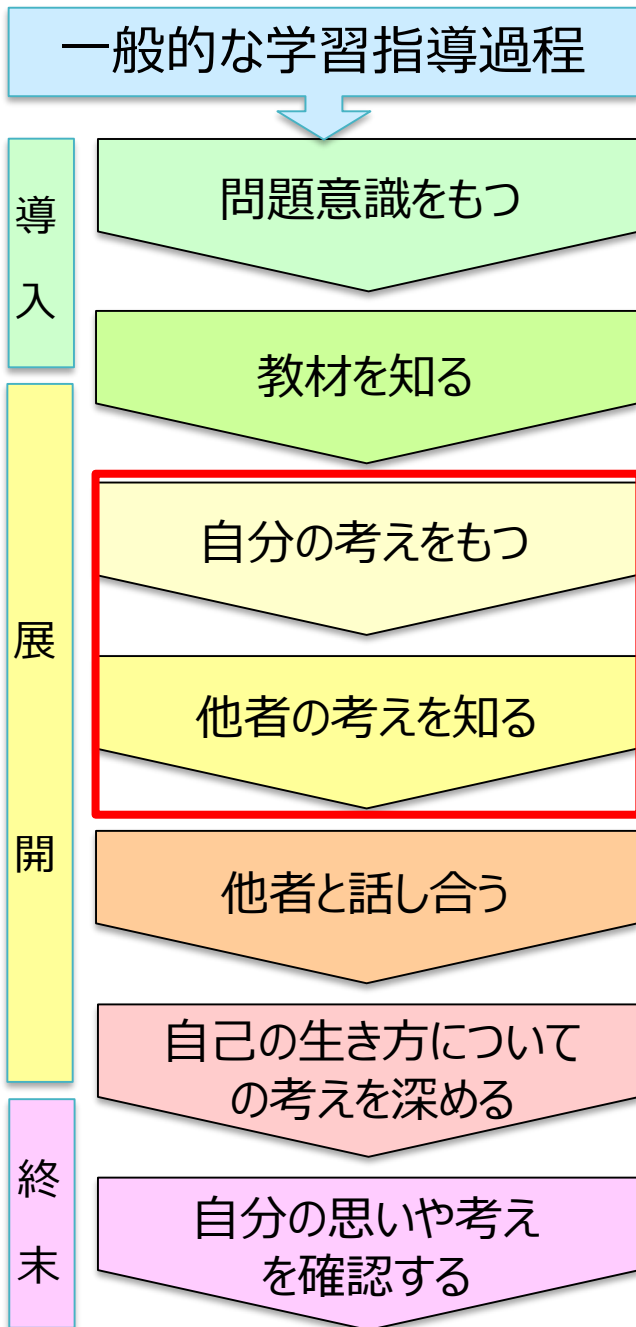
道徳科の授業におけるICTの効果的な活用

一般的な道徳科の学習指導過程におけるICT活用例

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	<ul style="list-style-type: none">・実態や問題を知る。	<ul style="list-style-type: none">・道徳的価値について、問題意識をもつ。	<ul style="list-style-type: none">・実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	<ul style="list-style-type: none">・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	<ul style="list-style-type: none">・自分自身との関わりで考える。・多面的・多角的に考える。・自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。	<ul style="list-style-type: none">・教材の提示 (画像や映像等)・自分の考えをもつ (ICT端末に示す)・他者の考えを知る (ICT端末に共有する) (表やグラフ等)・話し合う(直接的な対話)・自己を見つめる (ICT端末に蓄積する)
終末	<ul style="list-style-type: none">・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	<ul style="list-style-type: none">・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none">・生活の様子の提示 (画像や映像等)・外部の方の言葉の提示 (画像や映像等)

小学校・第3学年・道徳科・主題名「正しいことは自信をもって」

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任①



授業のねらい

正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。

活動のねらい

自分の考えを示すとともに、友達の考えを知り、比較して話し合いながら、自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の考えを I C T 端末の座標軸に書き込み、共有することによって他者の考えを視覚的に知ることができ、これらを基に話し合うことができる。

事例の概要

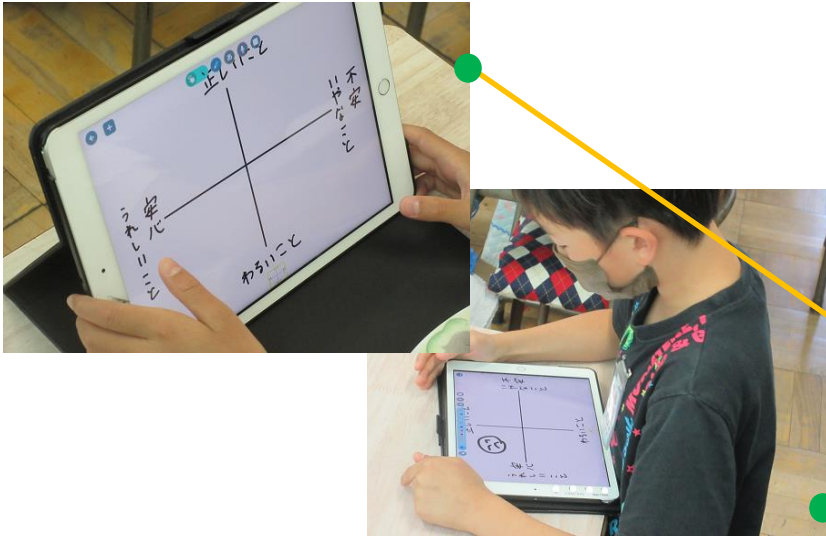
本授業では、善悪の判断とともにその時の気持ちを合わせて考えられるようにするために座標軸を活用している。自分の気持ちや考えを I C T 端末で示し、友達の考えを知って話し合うことで、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることが理解できる。

小学校・第3学年・道徳科・主題名「正しいことは自信をもって」

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任②

～プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能を活用して、考えを表現・共有～

【デジタルスライドの座標軸に
自分の気持ちや考えを位置で示す】



【共有された他者の気持ちや考えを知る】



【学習の目的】

道徳科の学習では、何がよいことで何がいけないことなのかを、様々な内容項目を手掛かりとしながら考え、道徳的価値を理解することなどを通して道徳性を養うことを目標としている。しかし、道徳的価値を知的に理解するだけでなく、その時の自分の受け止め方も合わせて考えていき、その感じ方や考え方は一つではなく、多様であることも理解する必要がある。これらの理解のことを「価値理解」「人間理解」「他者理解」と言い、道徳的価値の理解に必要なものである。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

- ・教師が事前に作成したデジタルスライドの座標軸に言葉を入れて児童のICT端末に送り、一人一人の児童は、座標軸上の自分の考えにあてはまる場所に好きなマークを書き加える。その後、一人一人の児童はマークを入れたデジタルスライドを学習支援ソフトのファイル共有機能を使って共有することにより、それぞれの考えを知ることができる。

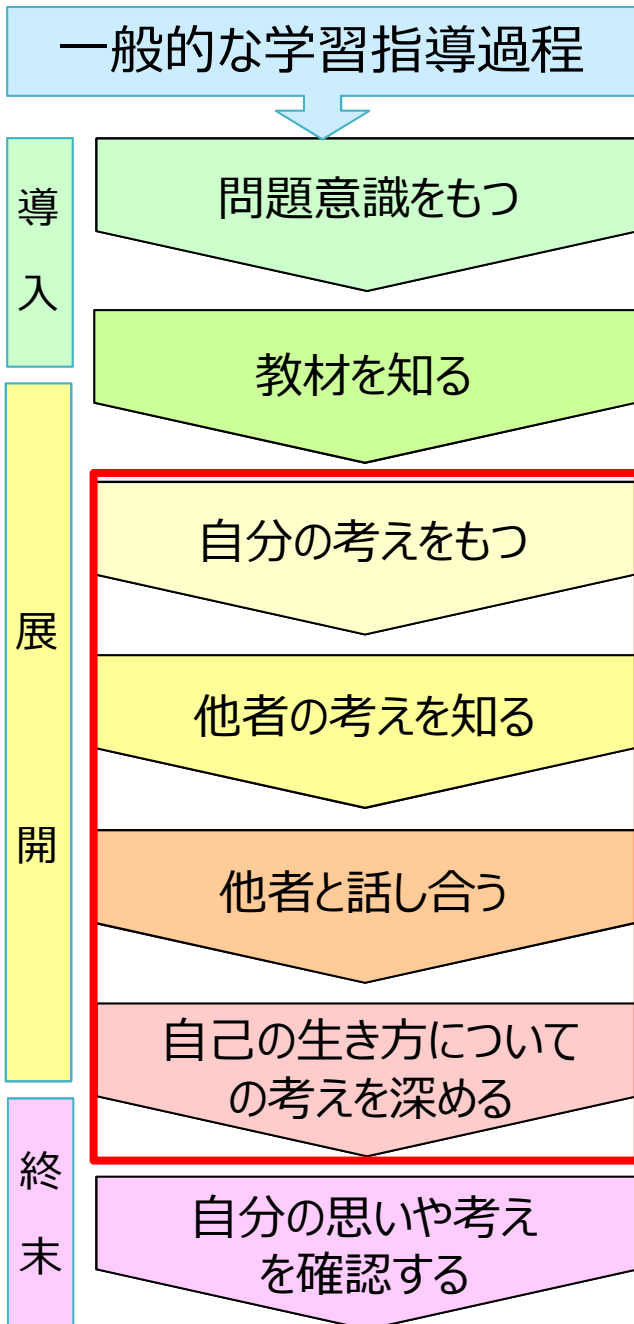
【ICT活用のメリット】

- ・黒板に表示された一つの座標軸に児童がネームプレートを貼っていく場合と比べると、時間が短縮され、ネームプレートを先に貼った児童の考えに影響されにくく、一人一人が自分の考えを表現できる。
- ・共有された友達の考えを視覚的に捉えることができ、自分の考えと同じ友達や違う友達を見つけることが容易にできる。

○ 活用したソフトや機能：プレゼンテーションソフト、学習支援ソフトのファイル共有機能

小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

内容項目：A 正直、誠実①



授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

活動のねらい

話し合いを通して自分の考えの変容を示し、学級全体に伝えることで、聞いている友達がそれぞれに自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の最初の考えとその後の考えを数直線上に示し、一人の変容した気持ちや考えを共有することによって、他者が参考にすることができる。

事例の概要

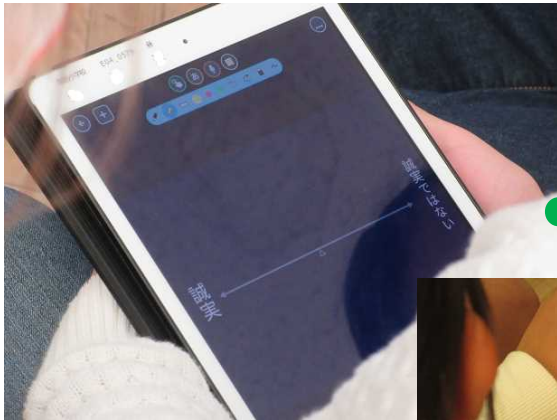
本授業では、教材の登場人物の行為に対して誠実だと思うか、思わないか、自分の考えを数直線上に示す。その後、話し合いを通して変容した気持ちや考えを同じ数直線上に示し、その変化を発表することで、聞いている友達が自分と比較しながら視野を広げて考えることができる。

小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

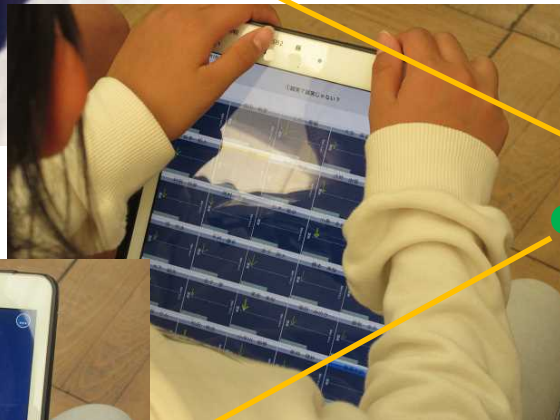
内容項目：A 正直、誠実②

～プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能を活用して、考えを表現・共有～

【共有して他者の考えを知る】



【デジタルスライドの数直線に自分の考えを示す】



【変容した考えを矢印で示し、発表する】



【学習の目的】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提として、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。このように物事を多面的・多角的に考える学習を通して、自分の考えを深め、判断し、表現する力などを育む。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

教師が事前に作成したデジタルスライドの数直線を児童のICT端末に送り、児童は、数直線上に自分の考えの傾向を矢印で示す。その後、学習支援ソフトのファイル共有機能を使って学級全体でデジタルスライドを共有し、話合いの後にもう一度同じ直線上に矢印を示す。教師は児童を意図的に指名をしてその変容した考えの根拠を発表してもらう。

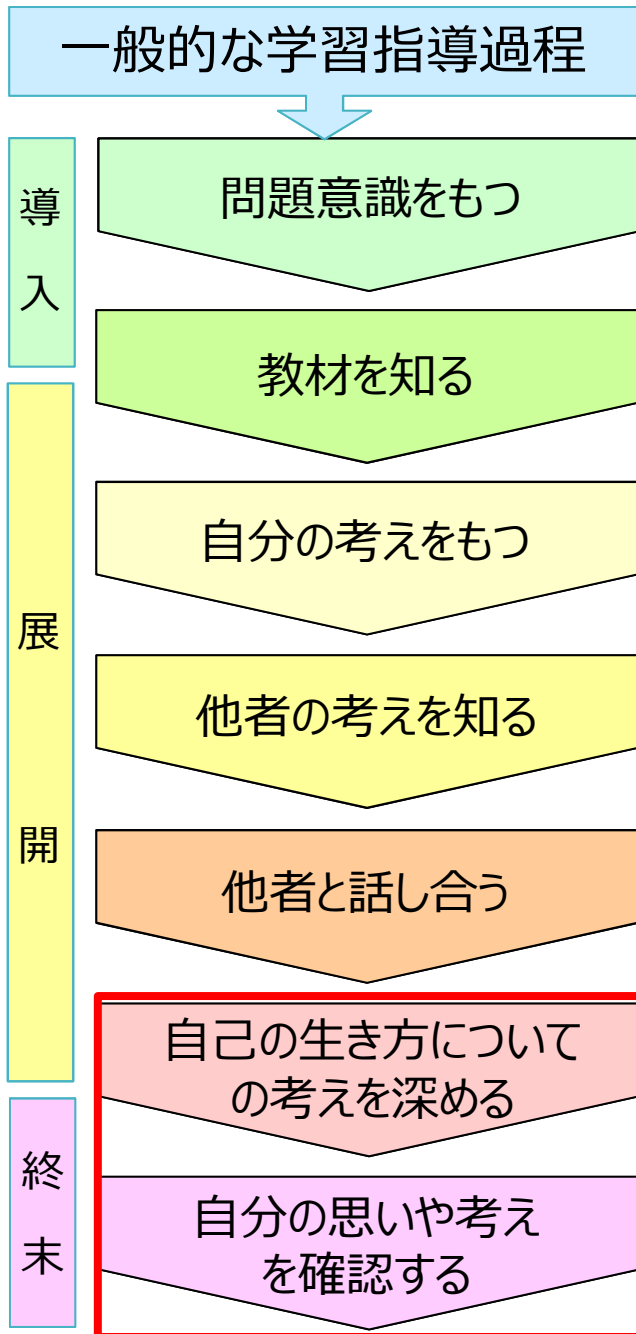
【ICT活用のメリット】

- ・共有された友達の考えを視覚的に知ることができ、自分の考えと比較することができる。
- ・変容した児童の考えが視覚的に捉えやすく、教師は全児童の考えをその場にいながらICT端末で把握でき、意図的に指名をして、広く深く考えていくことができる。

○ 活用したソフトや機能：プレゼンテーションソフト、学習支援ソフトのファイル共有機能

小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

内容項目：A 正直、誠実①



授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

活動のねらい

他者と話し合った後、授業を振り返りながら自分の考えをまとめる段階で、他者の考えも参考にしながら自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の考えを I C T 端末に打ち込み、共有することによって他者の考えも知ることができる。また、教師も全児童の考えを見渡すことができ、意図的に指名して学級の全児童に紹介することができる。

事例の概要

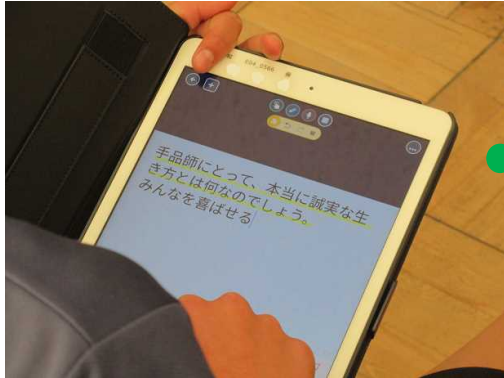
一人一人の児童が、ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題を見つけることができる。また、教師は、全児童の考えが把握しやすく、意図的に指名に生かすことができる。

小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

内容項目：A 正直、誠実②

～学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフトを活用して、考えを共有・記録～

【ICT端末に自分の考えを打ち込む】



道徳科では、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることが大切である。そこで、本時に行われた道徳科の授業を一人一人の児童がしっかりと振り返りながら、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

【学習の目的】

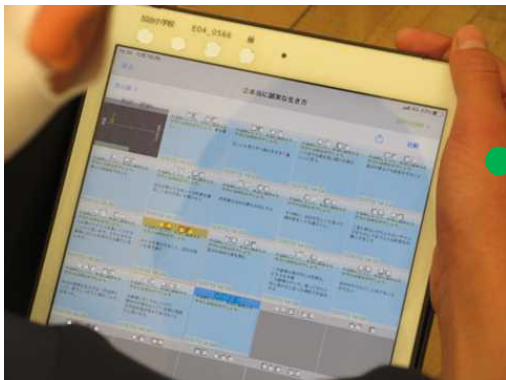
【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

一人一人の児童がじっくりと、本時の授業を振り返りながら、自己の生き方についての考えを深め文字を打ち込んでいく。一人一人の児童がICT端末に打ち込んだ考えについて教師は、共有したり、意図的に共有しなかったりする。なかなか考えがまとまらない児童への対応として、一定時間を見計らって全児童の考えを共有する。教師は、全児童の内容をICT端末で確認しながら、個別に対応する。

【ICT活用のメリット】

- ・共有された友達の考えを知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができる。
- ・教師は全児童の考えをその場にいながらICT端末で把握することができ、意図的に指名をして、特定の児童の考えを他の児童に紹介することができる。
- ・このように毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる評価の資料として活用することができる。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト



【意図的に指名をして紹介する】

小学校・第6学年・道徳科・主題名「真の友情」 B 友情、信頼

育成を目指す資質・能力

鳥取県提供

友達の立場や気持ちを理解し合うことで、互いに高め合うような友情を深めていこうとする心情を育てる。

ICT活用のポイント

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うために、デジタルホワイトボードソフトを活用することで、自分とは異なる様々な考えに出会い、道徳的価値について多面的・多角的に考えられる。

事例の概要

①導入：学級の実態を知る。

行事の後：「友情を深めるために大切な事は何だろう。」

②展開1：「ロレンゾの友達」を聞き、自分は、誰の考えに近いのか考える。

自分の意思を明確にする。

③展開2：「三人は、なぜ木の下で話したことを言えなかったのか」について考える。

④終末：自分自身を振り返る。

「友情を深めるために大切な事は何だろう。」（再度問う）

◎「ロレンゾの友達」(出典：読み物資料とその利用)を読むことを通して、友達のためにするべきことを話し合う3人の思いや考えについて、自分事として考える。

◎学習支援ソフトに、プレゼンテーションソフト、デジタルホワイトボードソフトの課題を準備する。

・最初と最後の記録はプレゼンテーションソフトに行い、クラウド上に保存

・意思決定：デジタルホワイトボードソフト

・「友情を深めるために大切なこと」授業前、授業後のアンケート比較：アンケート機能

①プレゼンテーションソフトを使用し授業前の価値への捉えを記録する。

(授業後にも同じ問いをすることで、授業後の価値の変容の自覚へつなげる。)

②デジタルホワイトボードソフトを使用し、自分は3人のうち、誰の考えに近いのかを考えながら付箋に意見を書き、貼り付けていく。

次に、グループの友達の考えを読み合い、共感すること、もっと詳しく聞きたいこと等をグループのプレゼンテーションソフトに書き込むことで、自分の考えを整理する。

③中心発問に関しては、自分の考えを明確に持った上でグループで話し合う。

④様々な考え方に触れた後、再度、「友情を深めるために大切なことは何か」について問うことで、考えを深める。

⑤振り返りとして、今日の時間を通して分かったこと、考えが変わったこと、自分への気づき、これからの自分について等、プレゼンテーションソフトに記録する。

小学校・第6学年・道徳科・主題名「真の友情」 B 友情、信頼

【ICT活用場面①】

宿泊体験を通して、友情を深められましたか。
はい 30人 いいえ 0人
○苦しいときは助けあえたから
○思いを伝え合えたから
○素直に思ったことを言えたから
○一緒にいてがんばれたから
○こまったことも、一緒にできたから

最初のアンケート

教材名「ロレンソの友達」B-(10)友情・信頼

○友情を深めるために大切な事は何か。
○さらに友情を深めるために大切な事は何かを答えながら、今日の学習を取り戻しましょう。

プレゼンテーションソフトを使った授業記録

【ICT活用場面②】

3人の中で、あなたはだれの考えに一番近いですか。

アンドレ お金を持たせて逃がす ロレンソが本当にお金をとっているのか、もしかしら、ちがうのかもわからない。 逃がすことはよくないけど、友達がかまえるほうがいい。	サバイユ 自首をすすめ、本人が納得しなければ逃がす ぼくは自首をすすめたいけれど、最後に決めるのは本人だ。	ニコライ 自首をすすめ、本人がしなれば、警察へ連絡する 大切な友だちだからこそ、悪いことは悪いと、きちんと言いたい。
--	--	---

3人の中で、あなたはだれの考えに一番近いですか。
友だちの考えを見ながら、同じ思いや、もっとわくわく聞きたいことに線をひこう。

アンドレ お金を持たせて逃がす ロレンソが本当にお金をとっているのか、もしかしら、ちがうのかもわからない。 逃がすことはよくないけど、友達がかまえるほうがいい。	サバイユ 自首をすすめ、本人が納得しなければ逃がす ぼくは自首をすすめたい。でも、決めるのは本人だ。	ニコライ 自首をすすめ、本人がしなれば、警察へ伝える。 大切な友だちだからこそ、きちんと悪いことを言いたい。 ようわさを催し、相手の気持ちを思い、伝えることができるのが、本当の友だちだ。 にける方が、もっと悪いはず。彼で、きつと後悔する。
--	---	--

【ICT活用のメリット】

○「友情を深めるために大切なこと」について、アンケート機能の活用により、学級の実態を自覚できる導入となる。学習前のアンケート結果と学習後の結果を共有することで、価値理解の深まりの自覚へもつながる。テキストマイニングを使うと、重要と考えていたキーワードの変容も共有でき、多面的・多角的な見方ができる。

○デジタルホワイトボードソフトの活用では、グループごとにシートを分け、付箋に考えを書くことで、自分の意思を明確にすることができる。他のグループシートを見ることもでき、多面的・多角的な見方や考え方に触れることもできる。また、自分の考えが明確になり、思いを伝えやすくなる。

1つのシートを通して、グループのメンバーの思いや考えをいち早く共有することができることや、付箋に名前は書かないため、本音を語ることができる。

○プレゼンテーションソフトを活用し、自分の変容、新しい気づき等を、クラウド上に保存することができる。クラウド上にあることで、教師がいつでも必要な時に確認ができる。

【活用したソフトや機能】学習支援ソフト・プレゼンテーションソフト
デジタルホワイトボードソフト・アンケート機能・テキストマイニング